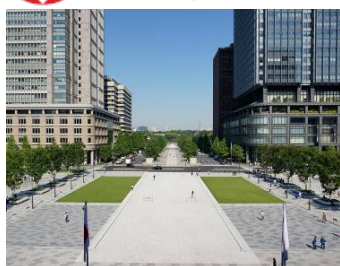




2018年10月3日
東日本旅客鉄道株式会社

「2018年度グッドデザイン賞」の受賞について

○2018年度グッドデザイン賞において、「丸の内駅前広場から行幸通りに繋がる景観」が「グッドデザイン・ベスト100」を受賞しました。また、「Suica」が「ロングライフデザイン賞」を受賞しました。
○このほか、「在来線混雑可視化システム」・「TOKYO SPORTS STATION」・「東北6県カレー」・「アールリエット高円寺」・「横浜駅西口仮囲いプロジェクト have a Yokohama」が「グッドデザイン賞」を受賞しました。



「丸の内駅前広場から
行幸通りに繋がる景観」



「Suica」



「在来線混雑可視化システム」



「東北6県カレー」



「TOKYO SPORTS STATION」



「アールリエット高円寺」



「横浜駅西口仮囲いプロジェクト have a Yokohama」

- ※グッドデザイン・ベスト100受賞対象は特別賞(大賞・金賞・グッドフォーカス賞)の候補となります。
- ※「丸の内駅前広場から行幸通りに繋がる景観」は、東京都との共同応募です。
- ※「在来線混雑可視化システム」は(株)日立製作所との共同応募です。
- ※「TOKYO SPORTS STATION」は東京地下鉄(株)との共同応募です。
- ※「東北6県カレー」は当社の単独応募ですが、当社グループの(株)紀ノ國屋との共同事業です。
- ※「アールリエット高円寺」は当社グループの(株)ジェイアール東日本都市開発による単独応募です。
- ※「横浜駅西口仮囲いプロジェクト have a Yokohama」は、デザイナーの(株)スタジオゲンクマガイとカン(株)との共同応募です。



■「丸の内駅前広場から行幸通りに繋がる景観」は、東京都と弊社が共同で取り組み、学識経験者・有識者などの助言・協力をいただきながら整備を行ってきました。駅前に大規模な歩行者空間を構え、皇居まで続く景観軸を意識した一体感のある空間を作り、格調高い首都東京の「顔」を創出したこと、またこれにより新たに人々の集う場所を生み出したことなどの点が評価されました。



【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

皇居と東京駅というおそらく日本で最も知られたランドマークを、日本には珍しい規模の象徴的な広場でつないだプロジェクト。東京駅前の景観がもたらす印象を大きく変え、東京駅を眺め、駅を背景に写真を撮るなど新しい人の流れや集いも作り出した。都市スケールの計画でありながら照明器具や舗装にも細やかなデザインが施され、地区の可能性を高く引き出した質の高い都市空間を創出した。東京の印象を左右する可能性のある、称賛に値するデザインである。



※グッドデザイン・ベスト100とは

その年のすべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、審美性、提案性、可能性など総合的に優れているとして高い評価を受けた100点です。グッドデザイン大賞候補（ファイナリスト）をはじめとする特別賞各賞がグッドデザイン・ベスト100の中から決定し10月31日に発表されます。



■「Suica」は、2001年にサービスを開始したJR東日本のICカードで、現在は鉄道、バス、お買い物などでご利用いただけます。パスケースに入れたまま改札機を通過できることで、お客さまの利便性を高めたことや、お買い物でもSF（電子マネー）を利用できることで生活スタイルにも変化をもたらしたことが評価されました。その後、クレジットカードとの一体型や携帯情報端末に搭載したモバイルSuicaなど、ラインナップが増えています。

【ロングライフデザイン賞審査委員 評価コメント】

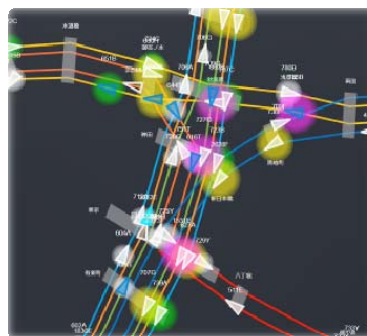
ここ十数年の都会での朝夕の通勤シーンを大きく変えたSuica。このカードの登場によって電車に乗ることと支払いをすることが一体化され、利用者にとっての利便性が大いに向上しただけでなく、乗り換え時や乗り越し時の精算の手間を省いて、手続きのストレスからの精神的な解放をももたらした。カードを出すことなくパスケースごとタッチできるのも、他の決済カードとの大きな違い。電車の他にバスやタクシーでも、またお店でも同様の使い方ができ、日常的な移動や買い物の行動スタイル自体を大きく変えたアイテム。

※ロングライフデザイン賞とは

「10年以上継続的に提供されている、広く支持されている商品やサービス」を対象とし、これまでとこれからの暮らしを豊かに支える、スタンダードであり続ける力を持ったデザインに贈られるものです。審査の対象となるデザインは、ユーザーからの推薦をもとに決まります。

GOOD DESIGN AWARD
2018年度受賞

■「運行管理支援システム（混雑可視化システム）」は、(株)日立製作所と弊社が共同で取り組み、列車の”遅延”と”混雑”という異なる情報を1つのアイコンで地図上にリアルタイムに可視化することで、輸送指令員にとって必要な情報を直感的でわかりやすく見せるデザインに変換したことや、蓄積したデータを用いて過去の状況をアニメーションで再現することで状況の振り返りにも活用できることなどが評価されました。これにより混雑状況を考慮した列車手配の意思決定を支援し、快適な輸送サービスの実現に貢献しました。



【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

素人が眺めるだけでも都市の交通網の密度や複雑さ、そしてその美しさに目を奪われるこのシステム、各車両の重量を混雑度に換算するなど、都市部の鉄道利用者の経験を向上させるためにビッグデータをうまく活用している。指令員の方々が、混雑や事故などに「現在」どう対処すべきかの判断を直感的に行うことを可能にするだけでなく、過去のデータを活用し、より快適な都市輸送システムのサービス向上にも貢献する、大変興味深いシステムである。



■「TOKYO SPORTS STATION」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)の旅客鉄道輸送サービスカテゴリーのオフィシャルパートナーである東京地下鉄株式会社と弊社が、東京2020大会1000日前を契機に始めた共同プロジェクトです。オリンピック、パラリンピックの各競技の見どころ・観戦ポイントを紹介する動画を制作し、両社の車内ビジョン等にて放映するほか、連動して車内ポスターでの掲出も行っています。トリビア的な面白さをきっかけとして競技への興味を持っていただき、東京2020大会に対する期待感を高めるコンテンツとなっている点、お客さまの移動時間を更に楽しんでいただける内容である点が評価されました。

URL: <https://www.youtube.com/c/TOKYOSPORTSSTATION>



【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

電車に乗っている時間は、時に退屈なものだが、その隙間で人々に競技の魅力伝え、東京2020への機運を高めるといったコンセプトが面白い。またよくリサーチされていて、非常に興味深いエピソードばかりで読むものを飽きさせない。またあえてアニメーションデザインを採用することで、非常にキャッチーな表現となり、スポーツにさほど関心のない人々にも訴求できる。

*JR東日本は、東京2020オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

■「東北6県カレー」は、「紀ノ国屋」オリジナルレトルトカレーシリーズとして、東北地方全体の統一感と連携感を表すと共に、東北6県それぞれで育まれてきた個性を大切にデザインを実現したこと、さらに生産者の顔と背景にある物語を記載し、消費者と地域の縁を作ることを目指したことなどの点が評価されました。

URL: <https://www.super-kinokuniya.jp/eshop/category/325>



【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

まるで雑誌のような楽しいパッケージである。東北6県の魅力が統一感のある形でシリーズ展開されており、全県分を購入したくなる魅力がある。一方で色や書体などのビジュアル要素が各パッケージで異なっており、それぞれの個性が際立つような細やかな配慮が見られるのも評価された。メインの写真にはカレーだけでなく、各県の工芸品が添えられているのが特徴的で、地域性と物語性の両方を無理なく表現することに成功している。裏面にレイアウトされている生産者と顔と物語は、雑誌的な表現を強調するだけでなく、作り手と買い手の距離を縮める工夫であるといえよう。

■「アールリエット高円寺」は、「まちに開かれた賃貸住宅」というコンセプトを基に、「女将」と呼ばれるコミュニティマネージャーが、住みながら住民間、地域間のコミュニティ形成に働きかける点や、1階にはコーヒー店とクラフトビール店を設けることでまちのアクセントとなっている点、定例イベントとなったマルシェ等が住民主体で行われている点等、ソフト面での住民の自主参加を促す機会の創出とハード面での人が集まる空間を設けたことが評価されました。

URL: <http://www.jrtk.jp/r-lieto/koenji/>



【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

社宅からのリノベーション案件でもある高円寺アパートメントは暮らし方イノベーションとも言うべき構成で組み立てられている。周辺との関係、隣人との関係、子供達や高齢者との関係。様々な関係性を重視し組み立てられている。プログラムとして想定された女将の立ち位置など、起動する切っ掛けから、現在では住人や住人以外の参加によりイベントが行われる。コトに対する価値を共通資源として繋がり合っている。サービスとして提供されるプログラムは切っ掛けであり、お互いの持ち味が空間の開放感を生み出している様に思う。「共存」と言う使命の様なモノよりも、緩やかに始まる優しい空間に仕上がったのだろう。



■「横浜駅西口仮囲いプロジェクト have a Yokohama」は、横浜駅西口開発ビル新築工事における工事用仮囲いフェンスを活用し、横浜の魅力を発信する地域メディアです。仮囲いフェンスというありふれた日常風景を、地域情報を発信するメディアとして活用していること、2015年から毎月異なるテーマで年4回更新される紙面の制作過程で、累計150以上の地元企業・団体・クリエイター等と連携し、地域のつながりを生むプロジェクトとなっていること等が評価されました。



URL : <https://www.facebook.com/karigakoi/>

【グッドデザイン賞審査委員 評価コメント】

158年前に横浜駅が開業して以来、一度も工事が終わったことがないと噂され、時にはサグラダファミリアと呼ばれ、その終わらない工事が小説にまでなった横浜駅。仮囲いはもはや、横浜駅の日常風景だ。毎日40万人以上の人々が通過する場所を横浜の創造都市政策と結びつけ、クリエイターの発表の舞台にしたのがこのプロジェクトだ。いままでメディアとして捉えられていなかった場所を使って、数千万という人の無意識に地域のデザインを語りかけているプロジェクトとして評価できる。

※グッドデザイン賞とは

1957年に通商産業省（現経済産業省）によって創立された「グッドデザイン商品選定制度」を承継して、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会が主催する、わが国で唯一の総合的デザイン評価・推奨制度です。